

科目名	言語と社会			ナンバリング	COM231	授業形態	講義
対象学年	2	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	西村康平	担当教員					

授業の概要	われわれの社会における言語の役割や使われ方について様々な観点から観察・考察し、社会と言語の関係性について理解する。自分の周りで話されている言語を観察し分析することで、より深い理解を目指す。						
到達目標	1. テキストに示された様々な言語の使われ方を考察し、社会における言語の役割について理解することができる。 2. 自分自身の周りの言語の使われ方を観察し、社会との関係において興味深い点を指摘・分析することができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	テキストに記載されている言語現象について、自分の周りでの言語の使われ方と比較することで、より深く理解することができる。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
		4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 社会における言語の役割に関して、基本的な概念を説明できる。 2. 自身の周りで話されている言語現象を観察し、興味深いものを挙げることができる。	1. 社会における言語の役割について、様々な観点から議論できる。 2. 自身の周りで話されている言語現象を観察し、社会言語学的な観点から分析できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
レポート(3回)	○	○	○		○		60%
授業態度・授業への参加		○	○	○			40%

課題、評価のフィードバック	レポートにはコメント、評価を記入した上で返却する。
---------------	---------------------------

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	イントロダクション	テキスト、講義の進め方、評価方などについて説明する。	
	第2回	社会言語学の目的	社会言語学の目的の理解	
	第3回	言語の選択(1)	多言語社会	
	第4回	言語の選択(2)	コードスイッチング	
	第5回	言語の選択(3)	言語規則	
	第6回	言語の選択(4)	言語の死／言語の誕生	レポート出題
	第7回	言語のバリエーション(1)	地域方言	
	第8回	言語のバリエーション(2)	社会方言	
	第9回	言語のバリエーション(3)	黒人英語	
	第10回	言語のバリエーション(4)	ジェンダーと言語	
	第11回	言語のバリエーション(5)	年齢と言語	レポート出題
	第12回	言語とコンテキスト(1)	オーディエンス・デザイン	
	第13回	言語とコンテキスト(2)	スピーチ・アコモデーション	
	第14回	言語とコンテキスト(3)	ポライトネス・ストラテジー	
	第15回	言語とコンテキスト(4)	力と仲間意識	レポート出題
	試験	期末試験は実施しない。		
授業の進め方		受講者はテキストの指定された範囲をあらかじめ読んでおき、講義では重要なポイントについての確認・議論を行う。		
授業外学習の指示		予習:テキストの指定された範囲を読み、重要なポイントについて考察しておく(120分)。 復習:講義での議論について、ポイントを再確認する(60分)。 (授業外学習時間: 毎週 180 分)		

教科書	『社会言語学入門 改訂版』 東 照二 著、研究社 ISBN: 978-4-327-40157-3
参考書	
参考URLなど	
その他	講義に関する連絡事項や講義内容の補足などをManab@IMUに掲載する。受講者は随時確認すること。